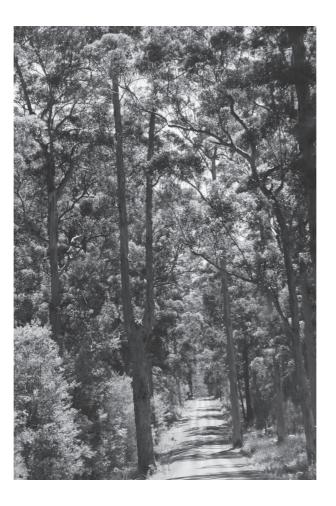
## 眼で見る世界の森林 (2)

パースの発展を支えた森(Jarrah forest)

前回紹介した「巨木の 谷」から1号線(Southwestern-highway)をパー スに向かい北上すると, Manjimupの手前でjarrah (Eucalyptus marginata) の森林内を通過する。 Shanon 国立公園の一角 である(星印)。胸高直 径は平均50cm 前後,樹 高は40mに達し,通直・ 完満な幹が林立している (写真)。

西オーストラリア州の 政府機関である "Department of Conservation and Land Management" (CALM) によれば、 ヨーロッパ人が入植した 200 年前には 278 万 ha の jarrah forest および jarrah/marri forest が存 在したが現在は 210 万

ha に減少したという。現在残された森林も多くは 劣化し、原生林に近いものは27万 ha であり、そ のうち12万 ha が国立公園や保護地域に指定され ている。一方、15万 ha は州有林に存在し、現在も 伐採されている。州の "Forest Products Commission" の年次報告によれば、2009 から 2010 年にか



けて天然林から生産され た用材のうち、jarrah は 13万 m³であり、karri が 5万 m³、marri が 1万 m³と続き、この3種で 98%を占めている。

Jarrah 林が分布する 地域は冬雨型の地中海性 気候で年降水量は600 mm から1,300 mm であ り、土壌は肥沃だが、し ばしば高濃度の塩類を含 んでいる。Marri (Corymbia calophylla) およ び karri (E. diversicolor) と混生し、Acacia 属 や cypress pine (ヒノキ 科 Callitris 属) などを 伴う。下層にはモクマオ ウ属 (sheoak) やビャ クダン属 (sandalwood) が生育する。撮影した jarrah 林も人手が入り

管理されている。特に森林火災防止のため、下層の 枯れ枝、枯れ草がある程度蓄積すると定期的に火入 れを行っている。今回の説明には主に Forest Products Commission (2010): Annual Report 2009-2010. 110pp. Forest Products Commission を参考にした。 (森林総合研究所 斉藤昌宏)